

第8期第5回さいたま市公民館運営審議会 議事録

1 開催日時

平成28年7月22日（金） 午後1時から2時45分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 7階 講座室1・2

3 出席者名

〈委員：11名〉

- ① 坂西 友秀 委員長
- ② 佐伯 加寿美 副委員長
- ③ 青木 光美 委員
- ④ 稲垣 克行 委員
- ⑤ 碓井 麻由美 委員
- ⑥ 加藤 正晴 委員
- ⑦ 黒岩 清 委員
- ⑧ 田中 徳代 委員
- ⑨ 長谷部 美紀代 委員
- ⑩ 原 綾 委員
- ⑪ 松村 有香 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- | | |
|----------------|--------|
| ① 西区 指扇公民館長 | 鈴木 庄蔵 |
| ② 北区 大砂土公民館長 | 山本 修一 |
| ③ 大宮区 桜木公民館長 | 森田 隆之 |
| ④ 見沼区 大砂土東公民館長 | 吉田 勉 |
| ⑤ 中央区 鈴谷公民館長 | 佐藤 賢一 |
| ⑥ 浦和区 岸町公民館長 | 大嶋 真浪 |
| ⑦ 南区 文蔵公民館長 | 三上 富士夫 |
| ⑧ 緑区 大古里公民館長 | 藤光 若人 |
| ⑨ 岩槻区 岩槻本丸公民館長 | 宮崎 通夫 |

〈事務局：5名〉

生涯学習総合センター

- ① 副館長 小川 栄一
- ② 主幹 西渕 亮
- ③ 事業・企画係長 荻原 唯史

- ④ 事業・企画係主任 榎 進吾
- ⑤ 社会教育指導員 西山 尚子

4 議題

- (1) 公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）

5 配布資料

- (1) 会議次第
- (2) 第8期第5回さいたま市公民館運営審議会出席者名簿
- (3) 第8期第5回さいたま市公民館運営審議会席次表
- (4) 第8期第4回さいたま市公民館運営審議会議事録（案）
- (5) 平成27年度（第4回）インターネット市民意識調査結果概要および報告書（一部抜粋）（資料1-1）
- (6) さいたま市生涯学習市民意識調査報告書（一部抜粋）（資料1-2）
- (7) 「青少年・若者の公民館の利用についての調査」の概要（案）（資料2）
- (8) 「青少年・若者の公民館の利用についての調査」配布先一覧（案）（資料3）
- (9) 「青少年・若者の公民館の利用についての調査（案）」（資料4）
- (10) 「平成28年度 青少年・若者に関する公民館事業計画書」（資料5）

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴者の数

2名

8 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

9 審議内容

審議冒頭前回（第8期第4回さいたま市公民館運営審議会）の議事録について、事務局より説明した。

承認を経て議事に入った。

<p>荻原事業・企画係長</p>	<p>議題に入る前に、事務局より3点ほど説明させていただきます。 1点目は、本日の（資料1-1）についてですが、前回、平成27年度（第4回）インターネット市民意識調査結果概要および報告書の一部抜粋したものをお配りいたしました。一部の項目について、抜けていた部分がありました。そのため、前回の資料に、抜けていた箇所も含め、揃えた形で、改めてお配りいたします。抜けていた箇所については、資料（1-1）の5ページにあります、「公民館で行われる講座やイベントに参加し</p>
------------------	---

	<p>たことがない理由」の回答結果でございます。こちらの多かった回答としては、「特に理由はない／なんとなく」、次いで、「公民館で講座やイベントが開催されていることを知らなかったから」となっております。</p> <p>2点目は、このインターネット市民意識調査に関して、前回の審議会にて、調査対象が69歳以下となっていた経緯・理由について、ご質問をいただきましたが、インターネット市民意識調査実施担当課へ確認したところ、平成27年度の市民意識調査にて、インターネットを「よく利用する」「たまに利用する」を合わせた割合が、50代までが8割以上、60代までが約6割になる一方、70代までとなると、約3割になることから、70代以上になると、インターネットの利用割合が少なくなっているため、60代までを対象としたとのことでした。</p> <p>3点目は、こちらも前回、コミュニティ施設にて今回の意識調査と同様のアンケートを行っているものがあれば、提示いただきたいのご意見をいただきました。こちらでコミュニティ施設管理担当課および意識調査実施担当課へ確認したところ、コミュニティ施設でこのようなアンケートを実施した実績はないとのことでした。ただし、類似するアンケートとして、教育委員会生涯学習振興課において、平成24年度に「さいたま市生涯学習市民意識調査」を実施しております。こちらは「第2次さいたま市生涯学習推進計画」を平成26年度に策定するにあたり、市民の生涯学習状況を把握し、意見・要望を反映した計画とするため、アンケートを実施したという経緯がございます。今後、青少年・若者に対するアンケートを実施するにあたり、参考となりうる項目を絞り、抜粋したものを（資料1-2）として配布させていただきました。こちらの内容も踏まえていただいて、今後、青少年・若者に対するアンケート実施に向けて、役立てていただければと思います。説明は以上です。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございました。事務局より3点説明がありました。</p> <p>1点目は、（資料1-1）の追加項目について、2点目は、インターネット市民意識調査の対象を60代までとした理由について、こちらは統計上出ているということで、利用率が少ないから無くしてしまっよいかはわかりませんが、データに基づいて決定しているということです。そして3点目は、（資料1-2）の「さいたま市生涯学習市民意識調査」の追加ということで、こちらも前回の質問事項に対するものでしたが、いかがでしょうか。ご意見等が特に無いようですので、議題（1）「公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）」の説明を、事務局よりお願いします。</p>

議題（1）「公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）」における「青少年・若者の公民館の利用についての調査」について、事務局より（資料2）・（資料3）・（資料4）に基づき説明した。

坂西委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>アンケートについて、概要ということで、日程、配布先、項目内容について説明いただきました。まずは概要について、1点よろしいでしょうか。概要の「調査対象」にある「対象年齢」について、「将来、青少年・若者世代となる『中学生』および『15歳』を加えることとした」とありますが、これはどういった意味でしょうか。調査対象ではないのですよね。</p>
荻原事業・企画係長	<p>諮問上の「青少年・若者」の定義では、「概ね16歳～39歳」という括りがありますが、その後、アンケートの結果を踏まえ、答申ができあがり、その内容を公民館へ反映・展開していくタイムラグを考えると、現在、中学生の方も、2～3年後には16歳～39歳の枠内に入ると考え、ご意見を集めたいと考えております。</p>
坂西委員長	<p>私もそのように考えておりましたが、配布先に中学校が含まれていないのですが、そのことについてはいかがでしょうか。高校を配布先としているので、例えば質問項目の中で、「中学生はどうですか。」と、高校生に推測させるということも考えましたが、それではあまり現実味がないのかなと。中学生を調査対象とするならば、配布先に中学校を入れたほうが良いのではないのでしょうか。</p>
荻原事業・企画係長	<p>中学校を配布先に加えるかという点については、今後、検討していきたいと思いますが、市内の全中学校を対象といたしますと、60校近くございまして、人数も非常に多いことから、どの程度の範囲で実施すべきなのかということも含めまして、検討してまいります。</p>
坂西委員長	<p>よろしく申し上げます。他にはいかがでしょうか。</p>
青木委員	<p>同じく「調査対象」についてですが、この配布先を見ると、学校を除いては、社会教育・生涯学習等に関する施設に来るような方にしか届かないという前提がありますので、回答に偏りが出ることが想像されます。調査方法について、例えば公民館では、「利用者へ直接依頼」とありますが、そのほかは「回収箱を設置」とあり、回答数が読めず、世代も4区分に分けてありますが、そのばらつきが出てしまい、例えば30代だけになってしまうかもしれないなど、施設によってばらつきが出るかもしれないので、それをどのように捉えるかということと、そもそも、こういった施設に来ない方の意見が反映されづらいのかなという気がします。また、調査票の設問について、大設問の3・4番のところで、それぞれ講座と施設利用に関して(1)で、「実施していることを知っていましたか」という設問になっておりますが、「知らなかった」と回答すると、それ以降の設問に回答しない作りになっています。これでは、公民館以外の施設に来館していて、公民館を知らないという方ははじかれてしまうので、できれば、(1)に関しては、知っていても知らなくても、(2)以降の項目で、知</p>

	<p>らなかったけど、この調査を通して、参加や利用してみたいかも、と思う方がいるかもしれず、そのような方々の意見を拾うこともできますので、いずれにしても（１）の設問飛ばしは無くしていただいたほうが良いと思います。あと、大設問５の「あなたが、興味・関心があるイベントに関する情報」というところですが、この設問が指すイベントとは、公民館や市で主催するものに限定するのか、それともコンサートのような、民間で実施するようなものも含めたイベントとするのかで、回答が変わってくるのかなと思いますので、「市や県が主催する」という文言を入れるのか、ご検討いただけたらと思います。</p>
荻原事業・企画係長	<p>まず、社会教育施設以外の実施につきましては、若者がより集まりそうなところを検討してまいりたいと思いますので、委員の皆さまからもアドバイスを頂ければと思います。大設問３および４の（１）につきましては、ご意見いただきましたとおり、「知らなかった」と回答した場合でも、これを機会に参加・利用してみたいか、そしてどんなことをしていけば、より参加・利用してみたいと思うのかについても、調査できるようにしたいと思います。大設問５の「イベント」については、青少年・若者世代の方が、どのような媒体を見ているのか、市の主催に限らず、例えばアイドルやアーティストのコンサート情報を知るために、どのような広報媒体を見ているのか等のニーズを探ることで、多く活用されている媒体が把握できれば、そこへ公民館の講座情報等を掲載することが可能かといったことを検討するなど、今後の広報活動に活用できればと考えております。よって、ここでの「イベント」は、市の主催等に限定していないということで、ご理解いただければと思います。</p>
青木委員	<p>ということであれば、大設問５の選択肢の中で、「その他のホームページ」には、「ページ名」を自由記述することができますが、できれば、「広報誌・タウン誌」や「新聞・雑誌」についても、フリーペーパーや有料のものもあるので、自由記述ができるようにしたほうが良いと思います。</p>
荻原事業・企画係長	<p>ご意見いただきました件について、自由記述ができるように検討してまいります。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございます。他にいかがでしょうか。</p>
佐伯副委員長	<p>確認と質問ですが、（資料２）の「調査対象」にある「各属性１００」とありますが、「性別」「年代」があるので、それぞれ、「中学生・１５歳」「１６歳～１９歳」「２０代」「３０代」に「男」「女」があるので、８属性ということでしょうか。</p>
荻原事業・企画係長	<p>現在、考えております属性については、（資料３）にあります、それぞれの年代について、男女がありますので、８属性ということになります。</p>
佐伯副委員長	<p>ありがとうございます。内容について質問ですが、（資料４）の２ページにあります、（３）および（４）で、公民館講座へ参加していただくために必要なことを調査すると思いますが、（５）にあります「曜日」と「時</p>

	<p>間」を、(3)と(4)にも入れていただいた方が良いと思います。例えば、土曜日や日曜日でないと、講座にまったく参加できない前提があるうえで、参加しやすい日時を(5)で調査するようにつなげていくと良いかなと思います。併せて、(5)の「曜日」に、祝日を加えていただきたいということと、「時間」については、例えば過去に生涯学習総合センターで実施していた朝学のような時間が含まれていませんが、そちらについてはいかがでしょうか。また、3ページの(2)について、「利用してみたい」「利用したいとは思わない」に加えて、「利用する必要はない」という選択肢はないのでしょうか。</p>
荻原事業・企画係長	<p>ご意見いただいた件については、まず、(3)および(4)の選択肢に、は、曜日・時間帯がそぐわないので、参加できないと答えた方が、具体的に(5)で参加しやすい曜日・時間・場所について調査できるよう、内容を検討したいと思います。(5)について、「祝日」という選択肢を入れるよう、検討してまいります。また、最も参加しやすい時間帯ということで、ご意見のありました朝学については、昨年度、当センターで「さいたま市民大学 朝学・ビジネスコース」を午前7時15分～8時15分に実施いたしました。今年度につきましては、ビジネスコースを、早朝から夜間に時間を変更した関係で、調査についても「夜間」の時間を入れました。早朝の時間帯については、「その他」の選択肢にて拾えればと考えております。3ページの(2)については、「利用する必要はない」という選択肢を追加するか、あるいは「利用したいとは思わない」に、「または、利用する必要はない」と追記するなど、何らかの形で加えられるよう、検討してまいります。</p>
坂西委員長	<p>ありがとうございます。この調査は、基本的に青少年・若者が公民館へきてもらうということがねらいとなるとと思いますので、何かとつかかりになるような設問を入れないといけないと思いますが、いかがでしょうか。</p>
青木委員	<p>調査票の設問に関してですが、大設問3の(5)で、「より多くの方が参加しやすい日時」となっていますが、ここは、回答者が考える、より多くの方が参加しやすい日時より、あなたが参加しやすい日時を聞いて、その統計の結果、より多くの方が参加しやすい日時とした方がよい気がします。あと、配布先についてですが、実際の運用で各館50枚配置することですが、学校等で一斉に回答を依頼するわけではないので、これが回収目標とするのか、それとも絶対に回収しなければならない枚数とするのかで、大きく変わってくると思います。回収箱を設置するところで、直接声がけは難しいと思いますし、声をかけるとしても、先程の8カテゴリがあるので、ばらつきを考えながら声がけをしなければならないとか、現場が大変かと思うので、運用の仕方もある程度決めたほうが、間違いや負担が減るのかなと思うのですが、検討していただければと思います。</p>
荻原事業・企画	<p>大設問3の(5)につきましては、お話しいただいたとおり、調査票に</p>

係長	回答される方自身がどのように思っているのかを調査のうえ、集計した結果、より多くの方の参加しやすい日時ととらえられるよう、内容を検討してまいります。運用面での調査票の配布方法については、次回の審議会までに、各施設担当への依頼をするうえで、実際に調査方法についての調整を図りたいと思います。公民館についても、各拠点公民館長との意見調整を図ったものを次回の審議会にて提示したいと考えております。
佐伯副委員長	本日、お越しになっている委員の中で、松村委員はちょうど青少年・若者の世代にあたりますが、何かご意見はありますか。言われてすぐに意見を出すというのは難しいかもしれませんが、いかがですか。
松村委員	調査方法について、この調査は紙媒体のみでの実施を前提としているのでしょうか。
荻原事業・企画係長	現段階では、紙媒体をお配りして、実施することを考えております。本来であれば、インターネットによる実施も展開したいところですが、用意することが難しいことから、このようにしたいと考えております。また、ご検討いただく案については、本来であれば事前に案をお送りすべきところ、本日の配布となりましたので、佐伯副委員長からありましたとおり、他の委員の皆さんもすぐにご意見が出ない部分もあるかと思っております。今後も皆様からお気づきになった点をお伺いしたいと思いますので、今回の議事録の確認に、アンケートに対する意見票のような様式を同封のうえ、送付させていただきたいと思っておりますので、そちらにご意見を記入のうえ、御返送いただければと思います。
稲垣委員	よろしいですか。そもそもの話ですが、公民館をどのように活用していくかという話の中で、公民館という建物を利用するのか、公民館の機能、例えば講座や研修などを、建物の外へ出て実施するというを想定しているのか、そのあたりについてはどのようにお考えでしょうか。
荻原事業・企画係長	現在実施しております公民館事業のなかでも、近隣の施設等との連携を図るなど、実際に公民館施設の外に出て実施しているものもありますので、調査についてもその点を踏まえて行ってまいりたいと考えております。調査案の大設問7にて、「その他」の選択肢で、自由記述をしていただくなどして、そのようなご意見をいただけたらと想定しております。
稲垣委員	そのようなことを、もっとやっていただければと思います。私が勤務している学校現場の職員を見ていると、土曜日や日曜日に公民館へ行っているかという、おそらく行っていないと思います。職員は、その学校のある地域で子どもたちの指導を行うわけですが、職員は地域にあるものや歴史をよく知らないというのが現状です。そのため、夏休み等に職員対象の研修を行うのですが、地域の歴史や成り立ちなどを聞けたりすると、子どもたちと接する中でも生かされるのかなと思います。
坂西委員長	他にはいかがでしょうか。反映されるかはともかく、感じたところをたくさんおっしゃっていただいて、精査してまいりたいのですが。

加藤委員	<p>アンケート案を作成するのは大変だったと思いますが、公民館を利用する青少年・若者を対象にしているということはわかるのですが、お勤めになっていて、開館時間に来ることができない方や、役所の組織である公民館へ、なかなか意見を出したがるらない方もいらっしゃるのではないかとお思います。公民館を活用された方が、どういう意見を持っているのか知るにあたり、例えば中学生がバンド活動で公民館のステージ発表に出たことがあるというような、グループの一員として参加したことがあるなど、どのような理由で公民館を利用したのかということ把握する必要があると思います。というのは、青少年が、なかなか一人で公民館を活用することは難しいと思うのですが、グループという、その中でかつて公民館を活用されたことのある方が、団体で使ってみようという気になるのかなと思うので。現代社会の中で、友人関係が希薄になっていると考える青少年・若者に対して、公民館が共通項を持つ友だちをつくる手段となりうるという利点を持つということが、青少年・若者が公民館を活用するためには必要なのではないかとお思います。例えば就職して、パソコンの使い方がわからないので、もう一度学習するといった活用の仕方もあると思いますが、人と人のつながり、関係づくりということが大事なのではないかとお思います。</p>
田中委員	<p>よろしいですか。公民館は、中学生の職業体験の受入れの場となっていることがあるかとお思います。その中学生から、公民館というところには、このような人々が集い、このような活動をしているということ、今まで考えたこともなかったし、全く知らなかったという意見を多く聞きます。そのなかで、アンケートに「公民館では様々な講座を実施していることを、知っていましたか」という設問がありますが、これでは具体的な内容を想像しづらいとお思います。そのことは、公民館を利用したことがない若者に対して、同じことだとお思います。アンケートを実施する前の段階として、さいたま市の公民館の代表的な取組など、公民館の概要を掲載するということが必要かなと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
長谷部委員	<p>内容のことですが、大設問7の選択肢に、「外国語を学べる講座」とありますが、最近、外国の方も多く住んでいらっしゃるのでは、異文化交流といったような表現を入れたほうが、若者世代の方も興味を持たれるのではないのでしょうか。</p>
碓井委員	<p>先程の公民館の概要のご意見についてですが、今回の調査は、青少年・若者が、そもそも公民館についてどのように感じているのか、そもそも活動しているのかどうかというようなところから調べることを目的としていることから、利用がないという結果が出たのであれば、その内容を前提に検討していかなければならないとお思います。青少年・若者が、公民館を知らないので関わりを持たなかった、という結果が出たとすれば、もっと周知していただくために、2014年から2020年までは、文化芸術創</p>

	<p>造都市計画の期間であることから、もっと若者の方が参加していただけるよう、宣伝をしていくというような、一からの考えが必要だと思えます。公民館の概要を今から作成することは大変だと思えますし、活動ができていないのならできていないということから検討する必要があると思えますので、公民館の説明を掲載することは難しいのではないかと思います。</p>
<p>荻原事業・企画係長</p>	<p>各委員よりいただいたことについて、まず、青少年・若者世代の方が、一人ではなかなか行動が難しく、グループの方が活動しやすいのではないかとということと、公民館の役割として、友人関係の希薄な青少年・若者が共通の趣味などを通じて、つながりを持てるようなものが必要になるのではないかとのご意見ですが、調査票の大設問6にて「知人を増やしたり、交友関係を広げること」、7にて「地域のひととの交流を深められるイベント」や、「趣味や好きなことなどを話し合えるイベント」などの選択肢を盛り込んでおりますので、それらを選んでいただき、ニーズとして集約できることを想定して、作成した次第です。続いて、公民館のことを知っているか知らないかということ調査する件についてですが、今回のアンケートを作成する際には、青少年・若者の現状の把握ということで、前回のインターネット市民意識調査からも、公民館の講座へ参加したり、利用したことがあるという方は、全体の1割にも満たなかったことから、今回の調査につきましても、利用回数や認知度については、あまり高くない結果となることが想定されますが、まずは結果を把握したうえで、青少年・若者世代の方が、どの媒体から情報を得ているのかを知り、公民館の情報を幅広く知っていただくための広報の検討につながるよう、大設問の5を作成しました。そのことから、現状そのものを把握することを目的とする形を考えております。また、「外国語を学べる講座」の選択肢につきましても、単に語学の習得というところ限定せず、異文化交流や理解を図る中で、外国語も身につく、習得できるといったニーズを調査できるよう、検討してまいりたいと思えます。</p>
<p>黒岩委員</p>	<p>このアンケートを見ると、公民館を良く知っている方が答える前提の内容になっている気がします。アンケートの対象は不特定多数であり、公民館のことを全く知らない方も回答することを考えると、こういう設問の順番では、だめだと思えます。もっと発想を変えて、良いかどうかはわかりませんが、例えば大設問7を最初に聞くとか、前段となるような公民館の概要の説明を入れるとか、公民館で必ず実施する講座があると思えますが、それらの記載が無いと、答えようがないという場合もあると思えます。設問の仕方をもう少し検討した方が良いと思えます。</p>
<p>坂西委員長</p>	<p>検討するうえで、アンケートの実施にあたり、依頼先の事情もあることから、分量の制限もあるのではないかと思います。いかがでしょうか。</p>
<p>荻原事業・企画係長</p>	<p>分量については、今回はA4判用紙の両面2枚にて提示いたしましたが、実際にはA3判用紙の両面1枚で作成のうえ二つ折りにして用意し、そ</p>

	<p>らを回収箱に入れていただくことを想定しております。配布先のスペースの問題や、回答していただく方の負担にならない分量となることを考慮して、検討したいと思います。いただいたご意見についても、公民館を知っている方、知らない方、いずれの方にも対応できるような設問となりうるよう、検討したいと思います。</p>
坂西委員長	<p>いろいろなご意見をいただきましたが、こちらを参考にして、再度練り直しのうえ、より良いものにしていきたいと思います。最後に、盛り込むことは難しいかと思いますが、今回の調査は、どうしても実態調査という形式にならざるをえないかと思います。それで良いとは思いませんが、そういう形式にならないようにするためには、答え方の形式を変えないとまらないのかなと感じますが、そこまで踏み込むとなると、間に合わないと思います。そこで、中高生にアンケートを実施する場合には、先程のご意見にもありましたが、個人で来るということはなかなか難しいと思いますので、若者のグループというか、例えば学校などで、交流を図るということで公民館へ来るような際に、いろいろな世代の方と交流が持てて良かった、楽しかった、ためになった、人間関係の幅が広がった、地域を知るきっかけになったなど、ある程度選択肢を用意しても良いと思うので、このような事業に対して、青少年・若者世代が良かったと思っているのか、つまらないのもう来たくないと思っているのかといった、体験に対して感じたことについても、設問を設けていただければと思います。例えば、バンド活動として、公民館で演奏を行ったりしたら、そのことを良い経験ができたと感じたという結果になれば、そういったことをお願いしてみるということもできるのかなと思います。いろいろとご意見がありましたので、事務局も大変だと思いますが、今後、検討していただきたいと思います。今後も、各委員の皆さんから意見をいただきますので、事務局でもできる範囲でまとめていただき、委員としても協力していき、作成していければと思います。他にはいかがでしょうか。</p>
佐伯副委員長	<p>先程、黒岩委員のご意見のなかで、公民館で必ず実施する事業があるということで、子育て支援に関する事業があるかと思いますが、大設問6および7に入れたほうが良いと思いました。それと、冒頭で坂西委員長のご意見にありました、市内中学校への配布についてですが、ほとんどの公民館長は、対象区域の学校評議委員を務めていると思いますので、そのつながりを活用して、依頼ができれば良いのかなと思います。また、青木委員のご意見にありました、公民館に来ている方へ調査を依頼すれば、皆公民館を知っていると回答することになります。そうすると、公民館の配布枚数が3,000枚で、全体の3分の1程度を占めることになり、インターネット意識調査と割合が大きく変わってしまうので、来館者等のお子さんに依頼するなど、公民館へ来ていない方への直接配布の方法を検討していただければと感じました。</p>

坂西委員長	その点も、検討課題とさせていただきたいと思います。中学生についても、ランダムサンプリングが良いと思いますので、2段階、3段階で地域を決めて実施するなど、全部実施したら大変なことになりますので、工夫していただければと思います。いろいろご意見をいただきまして、ありがとうございます。それでは、議事を進行させていただきますが、今年度、生涯学習総合センターおよび各区公民館で実施する「青少年・若者に関する公民館事業」について、事務局より説明をお願いします。
-------	--

議題（1）「公民館と青少年・若者のつながりについて（現状の把握・課題の整理）」における「青少年・若者に関する公民館事業」について、事務局より（資料5）に基づき説明した。

坂西委員長	ありがとうございました。本日は、各館の一覧について目を通していただき、現在実施中ということもあるので、次回以降、実施状況について、報告も兼ねて説明をいただくということで、よろしくをお願いします。本日、予定しておりました議事はここまでとなります。ご協力いただき、ありがとうございました。今後については、アンケートの実施方法について、本日いただいたご意見等を反映させ、まだ案を練っていく段階だと思っておりますので、事務局と相談しながら、進めていきたいと思っておりますので、ご協力お願いいたします。もともと、参加の少ない層をどのように掘り起こすかということで、難しいところですが、よろしくをお願いいたします。本日の議事はこれまでということで、ここで事務局へお返ししたいと思います。ありがとうございました。
-------	---

事務局より、今回は、9月23日（金）午後1時より生涯学習総合センター7階講座室1・2において開催することを確認した。

10 閉会